

芸術の秋企画 「良い絵」とは？

～オークションの視点～

■日時 令和4年10月22日（土）14時から15時

■場所 まちなか図書館アートスペース

■豊橋市図書館「知の伝道師」 No.6. 山田 幹

■内容 美術品の価値を“金額”という目に見える価値に落とし込む「オークション」。これを最初のテーマに、何が「良い絵」とされるのか、美術品の価値や見方についてトークした。

読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋…〇〇の秋とつく言葉は多いですが、今回は芸術の秋ということで、アートに関連したトークイベントで、ありがたいことに、事前申込で満員御礼の15名の参加。

元々美術に興味は無かったのに興味を持つようになったキッカケから、普段聞くことのできない業界の話まで聴くことができ、参加した皆さんは山田さんの話に引き込まれていました。トークでは、**美術作品の全貌やその価値を理解するのに役立つカタログ・レゾネの紹介もあり、「その本がまちなか図書館にあります」という話には驚く人も！**山田さんの目から見ても、まちなか図書館の蔵書は興味深いものが多いとのことでした。あっという間に時間が過ぎ終わりの時間になりました。



まずは本やカタログを通して色々な作品を見て、これは好き、これは嫌いなど感覚的に見てもらえれば良いと思う。これを見たいな、と思って実際に美術館へ足を運ぶことがあれば、すでにその絵はあなたにとってきっかけを作っている。



また、できれば「嫌いだな」と思った作品についても、その理由を考えたり調べてみてほしい。その作品を描いた作者のことや、作品の背景を知ることで、その作品に対する印象が変わると思う。山田さんにとって「良い絵」とは、正解はないが、私たちに何か変わるきっかけを与えるものだと思う、と締め括りました。

